

令和元年度第4回大口町子ども・子育て会議 議事録

日時：令和2年1月22日（水） 13時15分～15時00分

会場：大口町健康文化センター 1階 機能回復訓練室

【次第】

1. 委員長あいさつ
2. 報告・協議事項
 - (1) 計画の基本理念と基本目標（第1章1～3の部分）について
 - (2) 子ども・子育て支援事業計画（第2章）について
 - (3) 次世代育成支援行動計画（第3章部分）について
3. その他

【資料】

次第

大口町子ども・子育て会議委員名簿

子ども・子育て会議席次表

資料1 大口町子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール

大口町子ども・子育て支援事業計画及び次世代育成支援行動計画（案）（第1章～第3章）

【議事録】

事務局（福祉こども課長）：【開会・あいさつ】

【資料確認】

【遅刻予定：水谷委員、田中委員】

【欠席委員：中野委員、川端委員、瀬瀬委員】

委員長：【あいさつ】

事務局（福祉こども課長）：以後の進行については委員長 お願いします。

2 報告・協議事項

（1）計画の基本理念と基本目標（第1章1～3の部分）について

委員長：2報告・協議事項（1）「計画の基本理念と基本目標について」を事務局より説明をお願いします。

事務局（福祉こども課山口）：【資料1 第1章1～3 説明】

委員長：ありがとうございます。ご意見、ご質問をお願いします。

天野委員：計画案29頁 基本的な視点（2）（3）（4）について、各々の視点の最後の説明に「つまり、…」とまとめられていると分かりやすいと思います。

委員長：文章の手直しについては事務局にお任せしたい。

内容については、確認していただいたということによろしいでしょうか。

委員（全員）：異議なし（拍手）

委員長：ありがとうございます。承認されました。事務局対応をお願いします。

（２）子ども・子育て支援事業計画（第２章部分）について

委員長：続いて、２報告・協議事項（２）「子ども・子育て支援事業計画について」を事務局より説明をお願いします。

事務局（福祉こども課山口）：【資料１ 第２章 説明】

岩根副委員長：大口南放課後児童クラブについて、空き部屋を利用することだが、就学前の小さな子どもたちが安心して利用するための対策はどのようになっていますか。

事務局（福祉こども課長）：放課後児童クラブの増員については、従来は増築で対応させていただいていたが、大口南放課後児童クラブについては、既存の部屋を利用することで対応させていただく計画です。

平日については、午前中は就園前の親子が遊びに来ます。放課後児童クラブの小学生の利用は午後になるので、住み分けはできると考えています。

夏休みは、放課後児童クラブの子どもの人数が増えるので、ぎゅうぎゅう詰めでやらざるをえないと考えています。遊戯室を有効活用させていただく予定です。

丹羽委員：先ほどの説明で、定員を超えても受け入れるといったことがありましたが、どういうことですか。

事務局（福祉こども課山口）：保育園でお子さんを預かるためには、面積の規定と職員配置の規定があり、それに基づいて定員を設定しています。面積としては余裕があるため、職員配置が可能であれば定員を超えても受け入れることができます。

丹羽委員：０歳児を可能な限り受け入れたいということですが、確保目標量を超えて、どんどん受け入れるということではないのですか。

すくすくサポートを初めて知ったのですが、なぜ人数が減ったのですか。

事務局（福祉こども課山口）：どんどん受け入れるという状況ではありませんが、職員配置ができれば可能な限り受け入れていきます。

すくすくサポートは、令和元年１０月現在援助会員が１０名でしたが、継続にあたり、新規の講座受講が必要になったため、改めて意向を確認したところ、４名になりました。これまでに実働されている方はほとんど残っているので、活動状況に大きな変化はないと考えています。

天野委員：放課後児童クラブの利用見込み量と定員について、現在の小学校児童数の考慮がどれだけされているのか心配があります。

事務局（福祉こども課長）：放課後児童クラブの利用者数は年度によって大きく異なり、ニーズに波があります。大口北放課後児童クラブの利用者数の伸びはおさまる傾向にあると考えており、定員は１１０人で考えています。

岩根副委員長：大口町では『木育』に取り組んでいます。これは子育て・子育ての柱になると思うので、基本目標、「４－２」の中に入れていただきたい。

事務局（福祉こども課長）：取り入れていきたい。

事務局（酒井保育長）：心と体の教育である木育を学びながら保育に活かしています。子どもの成長をみんなで見守るという考えを入れていきたいと思います。

委員長：木育は幼児期だけではなく、学童期にもつながります。学校教育はどうですか。

天野委員：『木育』というくくりにはしていませんが、ビオトープをはじめとして、生き物や木を大切にする取り組みを各学校が行っています。

委員長：子どもたちを育てるコアとなるものならば、アピールする必要があると思います。発展させていくためにもみんなで共通認識を持てるとよいですね。

事務局：『木育』が大事ということであれば、現計画P23のように、コラム的に入れて、共通妊娠をもって伝えていくということもできます。

倉知委員：「子育て10箇条」というものがあります。保育園でも、小学校でも同じものです。形に見えるものではないですが、小学校に上がったからといって関係ないわけではありません。

委員長：大口町では子育て文化を積み上げてきました。この従来からあった子育て文化を『木育』という言葉を使いながら、さらに発展させていくことが大切です。

児童館が、放課後児童クラブで利用することで小さなお子さんが使えないという意見がありましたが、現場ではいかがですか。

事務局（尾関）：1日を見ると、未就園児を連れた親子は午前中に来られることが多いです。午後に来て放課後児童クラブとバッティングしたときは、「また来てね」という声掛けを心掛けています。

児童館は0～18歳までの子どもが利用することができます。未就園児がいて、小学生が遊びに来た時には、いっしょに関わって遊べるように工夫しています。いわゆる異年齢交流です。北部児童センターが「狭い」「落ち着いて過ごせない」と言われたら、町内の他の児童館、子育て支援センターを紹介するようにしています。

委員長：ありがとうございます。

その他に意見はありませんか。

それでは必要な修正をお願いして、内容を確認していただいたということによりよろしいか。

委員（全員）：異議なし。

委員長：ありがとうございます。承認されました。事務局対応をお願いします。

（3）次世代育成支援行動計画（第3章部分）について

基本目標1・2G

Q：ドアノッキング事業についての現状を教えてください。

A：順調に進んでいます。訪問を断られる件数は年に数件ほどで、その場合は、保健師が対応し

ています。

Q：民生委員のなり手についての現状を教えてください。

A：民生委員は現在どの自治体でもなり手は少ない状況です。民生委員の補助を付ける自治体もあり、人が少ない状況をサポートしています。

Q：子育て世代包括支援センターの設置についての詳細について教えてください。

A：北保育園の中に開設します。職員を配置し、母子手帳交付の段階から子育て支援をする役割を担います。

Q：「母親支援」は計画内にあるが、「父親支援」はあまり取り入れられていないと感じます。

A：どのような父親支援があるとよいのか、具体的にどのようなことをしているのか。

→現在、大口町の児童センターでは「パパさんが遊ぶ」講座がある。それを利用してママさんの負担が少なくなると良いのではないかと。

Q：「イクメン」は進んでいますか。

A：20年前と比べ、授業参観に父親も来ています。子ども会ではドッジボールの審判員などの講習の参加もあります。

Q：「男は仕事、女は家事」の性別観は残っています。その風土を変えていく必要があります。啓発が必要です。

Q：「父親支援」はどこに書くか。

A：施策の一つにするのは難しい。P29には書かれていません。P29(2)の中に「父親の育児参加を促す」という文言入れ込むとよいと思います。さらに男女共同参画の中に入れ込むかどうかと思います。

Q：西小学校に外国人児童が多い。英語圏ではない。ネパールなど。「ポケトーク」の利用。外国人のお子さんは日本語が分かる場合が多いが、保護者の方で分からない方がいらっしやる印象を受ける。今後も支援が必要ではないか。

水谷委員：細かいことだが、記載のしかた。NPO/NPO 認可団体、団体名を出す/出さないなど記述の統一がなされるとよい。

田中委員：P80の「保育園のHP充実」について、「幼稚園」の内容を入れれば。

A：子育て相談のページには「幼稚園へも相談」という事項を入れることが出来るか。個別相談案件。

基本目標4・5G

横田委員：P99 幼保小中の連携とあります。大口町の3小学校は、それぞれ特色があり、違いがあります。運動会や学芸会の有無や開催時間等がバラバラだと聞きます。統一性があってもよいのではと思います。

中学校は、教室を移動して授業を受けると聞きます。いろいろなうわさもあり、不安が募っています。大口中には入れたくないなあという意見もあります。勝手に不安に思っています。

学校の連携が取れているのか疑問があります。バラバラなのではないかと感じています。

大脇委員：中学校の話はよく聞きます。自分の机がないので、ロッカーに荷物を入れて、授業ごとに移動すると聞いています。子どもがなじめるのか不安があります。

横田委員：移動があるため、トイレに行く時間がないという話も聞きます。

委員長：皆さんお子さんが小さいから、次のステージである学校・教育がわからないのですね。説明を受ければわかるけれど、現時点では戸惑いがあるということですね。

大脇委員：どうしてもまた聞きになってしまうので、ニュアンスが変わってしまうと思います。最初は不安があります。

P110 下校時のバス利用は防犯対策なのですか。週2日では少ないのではないですか。

事務局（松山）：このバス利用は、下校時に低学年のみになる場合のため、週2日と聞いています。それ以外の日は、高学年の児童もいるため徒歩とのこと。

委員長：どのくらいの児童がバス利用をしていますか。

事務局（尾関）：学校が把握していると思います。該当地域の1、2年生のうち、放課後児童クラブを利用している児童以外の児童が対象です。

委員長：子どもにはいつから携帯電話を持たせますか。ゲームはどうしていますか。そういった悩みはないですか。

横田委員：スマートフォンについては、ママ友とよく話をしていますが、できるだけ持たせたくないと思っています。中学校への進学説明会でもなるべく持たせない方がいじめにあわないという説明を受けたと聞きました。どうすればよいのでしょうか。

委員長：子どもがスマートフォンを使っていることで事件もありました。社会問題にもなっている状況ですが、家庭任せになっているように感じています。

保護者が考え合うのもよいのではないのでしょうか。

宇野委員：安全・安心とありますが、防災をテーマにした施策がありません。災害はいつおこるかわからないので、大人だけではなく、子どもも含めた全体での取り組みが必要です。

委員長：東北大震災では、石巻市大川小では、教員10人、児童47人がなくなっています。他の小学校での被害はありません。どのようにして子どもの命を守っていくのか考える必要があります。

熊本地震は夜でしたが、日中であれば保育園に来ている子どもたちをどのようにして守るのでしょうか。

大口町は五条川があります。水害も想定する必要があります。災害が起きることを前提に対策が必要です。家庭、保育園、幼稚園、小学校、中学校、児童館がどうするのかを考えなければいけません。

また、災害後としてPTSD対応が必要なのではないのでしょうか。スクールカウンセラーはいるけれど、幼稚園・保育園はどうするのでしょうか。考える必要があります。

避難所についても、授乳中の人、障がい児、アレルギーのある人、赤ちゃんが泣く

ことを気にする人、外国人等が快適に避難できるようにする必要があります。福祉避難所を知ってもらうことも必要です。柱の一つにする必要があります。

中野委員：先日一時保育の利用者の方の悩みをお聞きしました。

その方は、3歳までは自分で育てたいと考えている人で、上の子どもは3歳から幼稚園に預けて、下の子どもの子育てで悩んだことがあった時に、周囲に相談すると、早く保育園に預けないからだと言われたそうです。周囲は幼稚園・保育園が何とかしてくれる、早く幼稚園や保育園に入れないからだということを言われ、自分の子育ての仕方が悪かったのではと泣きながら相談されました。これまでに一時保育を利用する人は就労等の理由が多かったのですが、保護者の方の会話を聞いていると同様の話が多くあるようです。自分は仕事をしていないので、3歳までは幼稚園や保育園に入れずに育てたいのだけれど、自信がなくなってしまったと言われます。

いろいろな支援があることを知らせたいですし、保育園としてこんな支援ができると情報提供できるように知っておきたいと思います。

委員長：町全体のネットワークが必要です。ワンストップで相談・ケアができるフィンランドのネオボラのようなことがあればよいと思っています。そのためには、専門のスタッフをどのように確保するのか、育成するのが課題です。

横田委員：中学校ではLINEでのいじめがあるとうわさに聞いています。小学校でのうわさは聞きません。

委員長：いじめのない町にしたいと思います。どうしたらよいのか考えたいと思います。子ども自身に自信を持たせることも大事だと思います。

事務局（酒井保育長）：保育園では、3歳未満児が多くなっているのもあって、愛着や自己肯定感を育むために、できるかぎりのスキンシップをしています。

事務局（尾関）：児童センターには中学生も来ます。学校ではみ出てしまう子が来ています。もちろんその子どもたちにも良いところがあります。学校を離れた場で、子どもたちの良いところを認めもらえる場があってもよいと思います。児童センター、児童館の役割でもあると思います。

委員長：心を育てることを考えなくてははいけません。

不登校や引きこもりの子ども、人について、保育園や幼稚園の時は良かったのということを知ることがあります。しかし、それは保育園、幼稚園の時には見えていなかったかもしれません。子どもをみる力を育てなければいけないと思います。子どもたちに頑張れとただエールを送るのではなく、幼児教育の段階から一人ひとりが抱えているものに気づいてあげられることが重要です。

合 同：[各部会の意見要旨を公表]

委員長：ぜひ理念に反映させていただきたい。

3 その他

事務局（福祉こども課長）：次回は2月6日（木）13：15～を予定しています。第4章まで含めてご提示します。よろしくお願いいたします。

次回会議後、議会説明、パブリックコメントを実施する予定です。計画の修正が必要になった場合は委員長、副委員長にご相談させていただきます。

委員長：ありがとうございました。